

令和7年7月17日

## 令和6年度の自己点検結果

自己評価委員会

令和6年5月1日における在学学生数は、学部生 1,126 人（収容定員充足率 82.8%）、大学院生 10 人（同 33.3%）、助産学専攻科生 9 人（同 90.0%）で合計 1,145 人であった。各学科の在学学生数は、経営学科 191 人（同 95.5%）、福祉学科 98 人（同 40.8%）、こども学科 162 人（同 81.0%）、健康スポーツ科学科 365 人（同 91.3%）、看護学科 310 人（同 96.9%）であった。

令和6年度学部卒業生は、264 人で、経営学科 46 人、福祉学科 24 人、こども学科 34 人、健康スポーツ科学科 80 人、看護学科 80 人であった。また、大学院生 5 人、助産学専攻生 9 人が修了した。

学部卒業生 264 人中 249 人が就職希望者であり、248 人の就職が内定して就職率は 99.6%を達成し、実就職率は 96.9%であった。

令和6年度に実施した入試については、令和7年度の入学者数は 301 人（入学定員充足率 88.5%）であった。各学科の入学者数は、経営学科 46 人（同 92.0%）、福祉学科 17 人（同 28.3%）、こども学科 60 人（同 120.0%）、健康スポーツ科学科 103 人（同 103.0%）、看護学科 75 人（同 93.8%）であった。

令和6年度活動方針に対する自己評価は以下の通りである。

### （1） 福山平成大学中期計画を踏まえた学部・学科・研究科改革の推進

- ① 教育改革の継続
- ② 必要な組織改革（教職課程対応を含む）

（評価）計画通りに行かなかった。

教育改革、教職課程対応、外部評価の実施等は継続課題となった。

### （2） 学生募集および広報強化

- ① 殆どの学科での入学定員充足、全学充足率 90%以上。
- ② 学科の強みの更なる強化
- ③ 効果的な高校訪問、高大連携の実施
- ④ 広報力の強化

（評価）ほぼ計画通りであった。

全学の入学定員充足率は目標の 90%には及ばなかったが、5 学科中 4 学科は 90%を上回り、うち 2 学科は入学定員を確保した。また、Web 広告やInstagram等の活用により広報力の強化を図ったことの効果が見られた。

### （3） 学修支援、就職支援の充実

- ① 就職率 100%の継続と実就職率の引き上げ
- ② 学生満足度の向上
- ③ 国家資格・重点資格合格率の引き上げ

（評価）ほぼ計画通りであった。

就職率は 1 名が内定を得られなかったが、14 年連続で 99%以上を実現し、実就職率も上昇した。

アンケート結果や学長カフェでの学生の発言からも学生の満足度は高まっているとみられる。また、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、介護福祉士の国家試験合格率はそろって上昇ないしは 100% を維持した。

#### (4) 研究力の強化

- ① 科研費申請・採択件数の増加、外部資金の獲得
- ② 学会誌等への投稿、出版

(評価) 計画を上回った。

担当副学長を中心とする研究者交流会の定期的開催、FD 開催、研究環境の改善検討等により教員の研究意識が高まり、科研費補助金配分額は前年度の 689 万円から 1,079 万円に増加、大学順位も前年度の 596 位から 356 位に上昇し、いずれも令和で最高の結果となった。

#### (5) 社会連携の推進

- ① 地域貢献
- ② 教育と結びついた地域協働、アクティブ・ラーニング

(評価) ほぼ計画通りであった。

各学科が地域のニーズに応えながらアクティブ・ラーニングを取り入れ教育に反映させた。

#### (6) キャンパスのさらなる活性化

- ① 大学行事、課外活動等への学生の主体的参加促進
- ② 海外研修、国際交流
- ③ マナーアップ、全面禁煙化への準備

(評価) ほぼ計画通りであった。

コロナ禍で停滞した大学行事や課外活動が正常化し学生の主体的な参加が改善しつつある。また、さくらサイエンスの採択をきっかけに海外大学との交流協定を締結し、国際交流発展の可能性を高めた。また、全面禁煙の周知に努め 4 月 1 日から計画通り全学禁煙を実施することが出来た。

#### (7) ウェルビーイングの向上

- ① 働き方改革、業務効率化
- ② 働きがい
- ③ 良好な人間関係、教職協働

(評価) 十分な成果は見られない。